

九州運輸局メールマガジン 平成25年6月13日 第218号

～九州の明日を拓く運輸と観光～

<http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/>

## 目次

### 1 九州運輸局ホームページアップ情報（6月6日～6月12日掲載分）

- ・分野別情報
- ・報道発表
- ・お知らせ
- ・各種情報

### 2 現場レポート

- ・内航海運事業企業経営基盤強化等セミナーを開催しました
- ・造船業界へ羽ばたく新入造船マン

#### 1 九州運輸局ホームページアップ情報

（6月6日～6月12日掲載分）

----- 分野別情報-----

《バス・タクシー・トラック》

バスの申請・処分状況（5月分掲載）

[http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji\\_bu\\_ka/bus/bus\\_syobun2505.pdf](http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/bus/bus_syobun2505.pdf)

タクシーの申請公示状況（6月分掲載）

[http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji\\_bu\\_ka/taxi/taxi\\_kouji250611.pdf](http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/taxi/taxi_kouji250611.pdf)

トラックの申請・処分状況（5月分掲載）

[http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji\\_bu\\_ka/truck/truck\\_syobun2505.pdf](http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/ji_bu_ka/truck/truck_syobun2505.pdf)

----- 報道発表 -----

「鶴田（つるだ）ダム再開発」の見学を観光ツアーに取り入れ、催行していただける旅行業者を募集します。

<http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2013-0607-kankou.pdf>

A S E A N 6 力国からの招請事業及び観光説明会・商談会事業を実施します！

<http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2013-0607-kokusai.pdf>

欧州から旅行会社・メディアを招請し、九州観光の魅力を PR！

～ K L M オランダ航空と連携し欧州からの誘客に取組みます！～

<http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2013-0607-kokusai-2.pdf>

韓国・釜山において「九州観光説明会・商談会」を開催します！

<http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2013-0611-kokusai.pdf>

----- お知らせ -----

平成25年度 整備管理者選任前研修の開催について（情報追記）

<http://wwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/files/2013-0606-1422.pdf>

海上交通低炭素化促進事業費補助金に係る平成25年度「低炭素化改造等事業」

の公募開始等について

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001\\_022/2013-0611-kamotsu.htm](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/osirase/file001_022/2013-0611-kamotsu.htm)

----- 各種情報 -----

《入札・契約情報》

企画競争実施公示（6月7日公示分追加）

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list2.html#KIKAKU\\_KOUJI](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/list2.html#KIKAKU_KOUJI)

企画競争に係る実施結果の公表（更新）

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou\\_250610.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/nyusatsu/pdf/koukyou/kikakukyousou_250610.pdf)

## 2 現場レポート

内航海運事業企業経営基盤強化等セミナーを開催しました

～内航海運における船舶管理会社のあり方～

去る5月29日九州運輸局7階海技試験場において、九州運輸振興センター、九州地方海運組合連合会及び全国内航タンカー海運組合西部支部主催（九州運輸局協賛）による「内航海運事業企業経営基盤強化等セミナー」が開催され、九州各地から内航海運事業者をはじめとする約60名の参加がありました。

内航海運は、国内物流の約3分の1の輸送を担い、我が国の経済活動を支える基幹的な物流産業として必要不可欠であることは言うまでもありませんが、その一方で、「船舶の高齢化」と「船員の高齢化」という二つの高齢化問題を抱えています。

今後も安定的な輸送力を供給し続けるためには、船舶代替建造の促進と若年船員の安定的供給が喫緊の課題となっています。

これらの問題解決のためには、「船舶管理会社」を活用し、そのスケールメリットを活かした管理コストの削減や効率的な人材育成等を図ることによって、内航海運業界の経営基盤の強化を図ることが一つの解決策になるものと考えられることから、本セミナーを開催するに至りました。

講師に、国土交通省大臣官房（海事局）の清水参事官と、一昨年、熊本県天草市に設立された船舶管理会社、株式会社Aシップの牧田代表取締役を迎え、清水参事官から、「内航海運経営の安定的な維持運営について」と題して、内航海運が抱える課題とその解決に係る船舶管理会社の活用の有効性等の講話があり、牧田代表取締役からは、「内航海運船舶管理会社設立・運営について」と題して、会社設立に至った経緯やこれまでの主な活動内容等についての説明がありました。

セミナー参加者からは、現実に船舶管理会社として運営していくことになった際の不安や、逆に船舶管理会社にアウトソーシングする際のリスク等についての質問があり、清水参事官から、「昨年7月に国土交通省において策定された『内航

海運における船舶管理業務に関するガイドライン』の中で、[ 船員配乗・雇用管理 ] [ 船舶保守管理 ] [ 船舶運航実施管理 ] の3つの業務をセットで行うことを船舶管理業務と定義し、これら3つの管理をフルに行うことで、高品質な船舶管理会社の運営が可能となり、また、第三者機関による船舶管理会社の評価システムを導入することにより、魅力あるサービスを提供する船舶管理会社を育てていくことが必要不可欠」との話がありました。

船舶管理会社については、全国的に見てもまだまだ普及しているとは言い難い状況ですが、今後、零細事業者の競争力向上や経営力強化を促進する観点からも、船舶管理会社の活用を図っていくことは重要な課題であると考え、当課においては、引き続き「船舶管理会社の活用促進」に向けて取り組んでいきたいと思えます。

#### 【九州運輸局海事振興部 貨物課】

当日の様子は次のURLからご覧いただけます。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_218\\_1.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_218_1.pdf)

---

#### 造船業界へ羽ばたく新人造船マン ～長崎地域造船造機技術研修センター修了式～

5月31日（金）に三菱重工業(株)長崎造船所内で「長崎地域造船造機技術研修センター修了式」が行われました。

この研修センターは、長崎県の基幹産業である造船業を担う人材の育成を目的として平成18年12月に長崎県造船協同組合をはじめとした関連団体、長崎県、長崎市などの協力により設立され、これまでに6期188名が受講しています。

7期目となる今年は18歳から30歳までの10社25人の新人造船マンが、三菱重工業(株)長崎造船所OBから約2ヶ月間にわたり鋼材の切断や溶接、クレーン操作などの造船技術の基礎を学びました。

修了式は、まず研修センターの井筒会長が「会社の期待に応えられるように努力をして欲しい」と挨拶をしました。

次に来賓として奥村長崎運輸支局長が「ここで得た経験を土台として各職場で実践を積み上げ、長崎地域ひいては我が国の基幹産業である造船業の根幹を支えていってください」と祝辞を述べました。

その後、受講生ひとりひとりに修了証書が授与され、受講生の代表が「身につけた技術を生かして努力をしたい」と講師を初めとした関係各者にお礼の言葉を述べて終了しました。

受講生の表情からは2か月間で身につけた技術への自信と、新人造船マンとして

のやる気が感じられました。

また修了式には地元マスコミも取材に訪れるなど、造船の町「長崎」における地元造船業界の取組について、地域においても関心が高いものとなっております。

かつて世界一の建造量を誇った日本の造船業ですが、近年では中国、韓国に少し後れをとっています。

一方でその造船技術は未だ世界最高水準を維持しており、世界からは高く評価されています。

しかしながら、団塊世代の大量退職による技術の継承が課題となっております。

熟練工からその技術を学んだ若者達が、世界をリードする日本の造船マンとして力強く羽ばたいていくことに期待したいです。

【長崎運輸支局 船舶担当】

当日の様子は次のURLからご覧いただけます。

[http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail\\_magazine/pdf/photo/photo\\_218\\_2.pdf](http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_218_2.pdf)

//////// 編集部より //////////////////////////////////////  
2013年度道路交通法改正案では、自転車の左側通行を規定し、厳格に適用することになるそうです。

通行帯以外にも自転車のルール無視は目に余るものがあり、当然の成り行きかと思えます。

個人的には、左側通行をさせるのであれば、「自転車は歩行者に次いで速度が遅い＝常に追い抜かれる」わけですから、致死率の高い追突事故を防ぐため、バイクのように後方確認用ミラーの設備を義務づけする方が良いと思っています。

更に言えば、大々的キャンペーンをはって、右側通行に切り替えた方が良いのではないのでしょうか。

自転車側からは難なく自動車を視認できますし、自動車側も自転車運転者の目線から次の動きが予想でき、また夜間も発見がしやすいと思えますから。

自転車に乗りながら後ろの安全確認をするとふらつく者として、そう思います。  
( <止まって確認しなさい! )

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。  
編集部では、運輸と観光行政に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

